

Title	國友一貫齋の百年祭
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1940), 21(235): 3-3
Issue Date	1940-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/168108">http://hdl.handle.net/2433/168108</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

一般の人々の注意する所となり、プレストン市の天文家ホルデン Moses Holden (1777—1864) 氏の努力で、1826年には、リヴァプール市 Toxteth なるホロクスの生地 St. Michael 教会内に記念標が建てられ、又、1859年には、フールの教会にもホロクスの記念禮拜室と窓とが作られ、更に、かの1874年の金星の太陽面通過のあつた後には、ロンドンのエストミンスタ・アペイの中の、ニウトンの甥である Conduitt の記念碑の近くにホロクスの記念標が置かれることとなった。

こうしたホロクスの一例で見てもわかるやうに、人は多く満20歳未満にして其の天才を發揮するのであつて、之れは學問に於いても、藝術に於いても變りなく、東洋西洋共に、其の例は多い。それで、自分の年來の持論は、わが日本に於いても、學校制度に大變革を加へて、先づ“高等學校”などを廢し、大學の卒業年齢をウンと早く、20歳前後にしてつたならば、若い天才を多く働かせることになると思ふ。現今のやうに、25歳や26歳になるまでも學校教育を受けるやうなことでは、折角天賦の天才を殺してゐるやうなものである。30歳になれば、人は大抵凡才又は鈍才になつて了ふのであるから、何とかして、個人のためにも、國家のためにも、社會のためにも、若くして直接に實生活に働き得るやうな道を拓かねばなるまい。

自分が、我が國の天文界の發展のために、年來熱心に考へてゐることは、都會を離れた田舎に“天文學院”を開いて、中學を卒へたばかりの優秀な青年5人乃至10人を收容し、3年間を期して、寢食を共にしながら、天文學の修業に専心せしめることである。そして、おそくとも22~23歳の頃には一人の立派な天文家として、宇宙の研究に獨創的な手腕を發揮し得るやうにしたいと思ふ。今日の日本の大學教育は、單に職業人を養成するに止まり、眞の學的天才を出すやうにはなつてゐない。其の證據に、東西何所の大學からも、小理屈をコセコセ言ふ學者は出るけれど、眞に觀測を好んで大成する偉大なる觀測的天文學者は輩出しない。十數年前に比べて、天文臺の望遠鏡や其の他の諸設備は漸く外國並みに近づいたけれど、之れを使ひこなす手腕家が我が國に皆無の狀態であるといふ事實は世界の一奇觀と言はざるを得ない。

---

### 國友一貫齋の百年祭

幕末の科學者國友一貫齋の百年祭が、來る十二月3日午後、神照小學校（滋賀縣坂田郡）で執行され、有馬海軍大佐の紀念講演がある由。